



森のなかま

2012年11月号
NO.55 (継続200号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

“水源の森林づくり街頭キャンペーン in 第65回秦野たばこ祭”
9月22日(土)(晴れ)～23日(日)(雨)

3年連続のタイアップ出店

参加者	22日	361人 (大人156人、子供205人)
	23日	167人 (大人 56人、子供111人)
		(23日は雨天のため少人数となりました)

■ キャンペーン実施内容

- (1) 水を育む森林の大切さや、県が推進している水源の森林づくりについて、理解と協力の普及啓発ツールとして下記リーフレット等の配布による広報。
 - 平成24年度かながわ森林づくりの活動日程表
 - 水源の森林づくり事業関係のリーフレット・チラシ
 - トラスト会員勧誘パンフレット、緑の募金関係他
- (2) 「紙芝居(水は森林からやってくる)」、「クイズ(大人用、子供用)(問いかけ)」、「水源涵養機能実験コーナー」等により、「森林の働き」を通じて、「水源の森林づくり」事業を理解していただく。
- (3) 間伐材丸太切り体験により、みどり財団の森林づくりボランティア活動への参加申込に繋げる。
- (4) 木工教室(間伐材の輪切りを使った工作等(どんぐりクラフト等))。
- (5) トラスト会員勧誘と、緑の募金協力への声かけ。
- (6) 手作りグッズ販売(かながわ森林インストラクター会員の作品)。

実施状況

会場設営



開場前ミーティング



受付



緑の募金運動とガラポン



紙芝居と水源涵養実験



間伐材丸太切り体験 (次世代の侍と撫子)



木工教室 どんぐりクラフト



手づくりグッズ販売



グッズ群の一部



完成品に満面笑みの双子姉妹



たばこ祭りについて

<「たばこ祭り」の歴史>
 秦野のたばこ栽培は、江戸時代初期から始まり、薩摩(鹿児島県)や水府(茨城県)と並び、日本3大銘葉の一つとして、技術の優秀さは有名でした。第1回秦野たばこ祭りは昭和23(1948)年10月1~2日に行われ、すでに半世紀以上が経過しました。当初は、耕作者を慰安するものでしたが、昭和59(1984)年に300年余続いた秦野のたばこ耕作が幕を閉じたため、たばこ祭りは秦野の歴史と伝統を守り、後世に伝えていくという視点から、市民参加型の祭に変貌していきました。現在では、祭のテーマを「たばこ」と縁のある「火」とし、その「火」をイメージした新しい行事として新たなイベントを含め、より参加しやすいような企画となっています。また、たばこ耕作は姿を消しましたが、その技術は現在、秦野市の名産である落花生(ピーナッツ)の栽培に生かされているそうです。



市役所の横断幕



たばこの花



今回のポスター



全国植樹祭の3兄弟も応援に登場



夜は“ねぷた”登場

尚、23日は雨のため多くのイベントが中止となりました。

(写真:7期 伊藤恭造氏)

関係者データ

9/22(土)

(公財)かながわトラストみどり財団：初山様
 インストラクター：L森本⑤、井出①、足立④、伊藤⑦、武本⑦、渡部⑦、松本⑧、三浦⑧、中島⑨、青木⑩、金森⑩、松山⑩、時田⑩、尾崎⑪、松本⑪、赤崎⑫
 グッズ販売として：菊地①、米本②

9/23(日)

(公財)かながわトラストみどり財団：内海課長様
 インストラクター：L森本⑤、落合③、竹島③、渡辺③、足立④、相馬⑤、伊藤⑦、坂齋⑦、山崎⑦、阿部⑧、内野⑨、中島⑨、青木⑩、牧野⑩、松山⑩、山下⑪
 グッズ販売として：菊地①、米本②



かながわ森林インストラクターの会は
 緑の募金の支援団体としても取組んでいます。
 全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。
 (訂正：前号で委託と誤って記載いたしました。正しくは委嘱です)

私の認識

野鳥その103

高橋 恒通

カモ目カモ科の野鳥で今回ご案内するのは、冬鳥または留鳥のマガモ(漢和名:真鴨、英名: Mallard、体長L=59 cm)です。

成鳥♂の体色は、俗称“青首(アオクビ)”と呼ばれる通り細くて白色の首輪から上部は、金属光沢を有する緑色です。然し光の加減で黒色や金属光沢のある青紫色にも見えます。

嘴(クチバシ)は黄色、脚は橙色、胸前から体下面は黒褐色、体側面は淡褐灰色です。成鳥♀の体色はうす茶色地に黒褐色の横斑が混り、他のカモの♀同様に地味です。尚、脚は橙色で嘴は黒色です。

翼鏡は青紫色で、翼鏡を次列風切羽の先端の白色と大雨覆の先端の白色とがサンドウィッチ状に挟んで大変に印象的な模様が現れます。

マガモの棲息環境は、河川、池、湖沼、内湾や港、干潟などです。そしてマガモ達の行動は、夕方から活動を開始し水田や水辺の浅瀬などで稲の落穂やイネ科の植物の種子などを採食します。昼間は殆んどが休息状態ですが、少数の個体は日中に採食行動をします。

そして又、我国で繁殖行動をするのも少しですがあります。それは局地的で特に本州以南に多いと言われています。



さて、話は変わりますが世間で俗に“カモがネギを背負って来た”などと言うフレーズがありますが、カモの肉は洋の東西を問わず食材として広く認知されており、そのカモとはマガモだと私は認識しております。

マガモを中国で飼育して家禽としたものがアヒルだと言われています。そして日本やイギリス、フランス等の国で更に交配改良されてさまざまな体色のア

ヒルが作り出されています。その中で体色がマガモに近いものを一般に“アオクビアヒル”と呼ぶそうです。

このアオクビアヒルとマガモを交配したのが“アイガモ”と呼ばれと参考書には記述されております。

私達が美味しいと感じて食するカモの肉はマガモやアイガモやアヒルだと思われま

私事ですがカミサンのお親が金沢の人でして、金沢に在る菩提寺に墓参りした折に金沢の郷土料理の“カモの治部煮(ジブニ)”なる料理を、有名な割烹料理の店でご馳走になり大変に美味だった事を覚えております。脂の乗った柔らかい上質の肉でした。給仕の人に聞いたら“マガモを使っています”との答えでした。

私の想像ですが、大昔の人は様々なカモを捕えて食した中で最も旨かったのがマガモだった為、アヒルやアイガモにしていたのではないのでしょうか…

脱線ついでに蛇足ですが“カモの治部煮”の淵源は、加賀藩の武士で“治部某”なる名の者が長崎でオランダ人から教わった料理とモノの本には載っていましたが、別の説では汁にトロ味が強く煮ている時に鍋の中で“ぐつぐつ”で無く“ジブジブ”と音を立てる為だからと言う人も居ります。

話を戻しましょう。マガモの世界地図上の棲息領域はユーラシア大陸の中緯度域全て、そして北米大陸で北はアラスカ州から南はメキシコのユカタン半島辺りまでですが、何故か五大湖から北東部、即ちカナダのオンタリオ州、ケベック州などは領域外です。

尚、本稿で“棲息領域”と言っているのは、越冬地、繁殖地、周年棲息地の全てを含めた領域であります。

(参考資料)

◎日本の野鳥, 山溪ハンディ図鑑 7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎鳥630図鑑, (財)日本鳥類保護連盟

(イラスト) 広報 大塚 晴子

森林部会 『人工林整備技術研修会（枝打ち）』

9月30日（日） やどりき水源林新定着ボランティア活動地

台風17号が関東沖合に接近中で午後からの雨との天気予報のため、実習時間を2時間も短縮しての実施でした。今年度第3回目の人工林整備技術研修会は枝打ちのポイントを再確認することが主目的ですが、研修場所とした「やどりき水源林の新定着ボランティア活動地」に足を運んでもらう事が二つ目の目的でした。

後沢出合での全体説明



いざ実習場所へ



参加者は総勢21名、講師は森林部会長（佐藤）が担当、部会員の・相馬⑤・大澤⑩・松永⑪の3名に班リーダーとして協力いただいた。後沢出合で全体説明の後、研修地に向けて出発、途中で以前に行われた枝打ちの巻き込み状況の観察を行いながら、約1時間半かけて実習地に到着した。ここはヒノキの植栽地でこれまで全く手が入らず、作業は枯れ枝のすそ払いが主体だが、枝座（枝隆）と樹皮の境目を確認したり、安全作業の注意点、日頃気になっている点の確認など班リーダーとの質疑応答をまじえての実習時間であった。

以前の枝打ちの巻き込み状況は



実習



下山後、昼食をすませてから、枝打ちの方法とインストラクターの役割について、テキストを基に講義の時間を設けた。講義では、現在の枝打ち作業では枝座を傷つけないこと、残枝は出来るだけ短くすることに注意して指導すること、また、インストラクターの役割は「ボランティア参加者が安全に楽しく活動できるようにサポート、指導すること」であることを忘れずに、安全への配慮等適切な指導に当たるよう注意があった。解散直後、突然雨が降りだした。

（記：森林部会 佐藤 武晴）

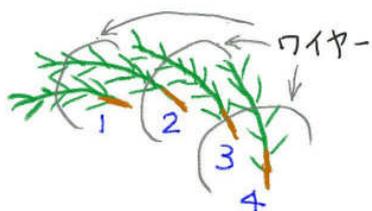
森林文化部会 『リース作り講習会』

9月29日（土） やどりき水源林 集会棟

年末が近づくと、やどりき水源林パートナー活動で、間伐等に合わせてクリスマスリース作りの希望が出てきます。今回、その指導者養成のための講習会を実施しました。クリスマスリースは、西洋では魔除けや豊作を願い、クリスマスの数週間前から各家庭の玄関に飾ります。日本のしめ縄に通じる習慣のようですが、キリストの受難をしのぶ宗教色の強いものになっています。使用する素材としては、魔除け→抗菌作用のある常緑樹・針葉樹。豊作祈願→松ぼっくり・リンゴ等。キリスト受難→柊等が主なものですが、今回は水源林のスギを用いてリース（輪）を作り、木の実などで飾り付けを行いました。

<作り方>

- ①実際の活動を想定して、林道・林内でスギの葉の採取を行う。（各自用意した紙袋に入れて行く）
- ②図のように1番目の枝の切り口を覆うように2番目の枝を被せワイヤー（細い緑色）で止める、これを繰り返して輪を作る。
- ③松ぼっくり等の大きな実はワイヤーを付けてリースに固定。細枝や木の実などはグルーガンを使ってホットボンドで止めて行く。



それほど難しい作業ではないので、コツが分かるとスムーズに作業が出来ます。皆さん熱中して午前中で完成しました。誰からともなく、「性格が現れるね」との声が。しかし、多少ゆがんだり葉がはみ出したりしているのも味がある世界で唯一の作品です。午後は、簡単にできるミニリースの作成を行いました。蔓（つる）を巻いて10cmほどの輪を作り、これに木の実やリボンなどで飾り付けを行います。手軽にできるので、ちょっとした活動に利用できそうです。

<参加者> 井出①、菊地①、米本②、落合③、森本⑤、武者⑦、白畑⑦、松村（俊）⑧、内野⑨、高橋⑨、村井⑨、中元⑩、小笠原⑩、青木⑩、福原⑩、真貝⑪、福島⑪ 17名 （記：森林文化部会 井出 恒夫）

活動短信

9/1~9/29

投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号掲載になるものもあります。予めご了承下さい



ヒノキ



ホウノキ

◆ タカナシ乳業株式会社 タカナシの森整備

日 9月1日(土) 9時~12時、晴れ

場 やどりき水源林

参 タカナシ乳業株式会社 8名

イ L宮下⑩、草野⑧

作業当日は好天で下界より涼しく絶好の作業日和。タカナシの森を視察後、枯れ枝や枯損木の処理などの森林整備を始めた。伐採木は枯損木で2本。伐採木とつるを利用したベンチづくりへの挑戦。思ったよりうまくでき、かわるがわるベンチに座ってみた。出来栄はなかなかのものであった。

林内整備後、ハンモックの利用体験。つるし方や利用の仕方を説明後、皆でハンモックをつるし、利用。せせらぎの音を聞きながら、ゆったりした雰囲気、いつもとは違ったハンモックでの休憩。フィトンチットやマイナスイオンを十分浴びながらの森林整備と癒し体験で、日々のストレスの解消と気分転換をしていただけたのではないかな。

(記 10期 宮下 修一)

◆ 神奈川県企業庁サービス協会

「水源林保全体験イベント(下草刈り)」

日 9月1日(土)9時~15時、晴れ時々雨

場 宮が瀬湖畔園地内

参 18名(大人12名、子供6名)

スタッフ 企業庁:山口 様 他3名 看 青木 様

イ L高橋③、柏倉④、小野⑦、金森⑩

大気が不安定な予報もあり当選された40名のうち約半分がキャンセルとなってしまった。本厚木から宮が瀬に向かう間はやはり雨、しかし草刈りの時間は晴れ間も見えなんとか実施できた。ヤマビルが心配されたが全く現れなかった。昼食時は激しい雷雨、しかし宮が瀬ダム見学時はまた晴、解散時は雨、なんとも不安定な一日だった。草刈り体験は初めての参加者が多く、草刈りの意義をよく説明した。綺麗になった緑地を見て子供達も満足そうであった。

(記 10期 金森 巖)

◆ 県民参加の森林づくり活動 (間伐)

日 9月8日(土) 8時40分~13時40分、晴れ

場 南足柄市内山(風切水源林)

参 73名(申込者: 87名)

財 内海 課長、永島 様 看 青木 様

イ L大道⑥、井出①、清水正己③、相馬⑤、有坂⑧、清水良一⑧、辻村⑨、金森⑩、後藤⑩、大澤⑩、中元⑩、一重⑩、真貝⑩、松永⑩、大橋⑩、碓井⑩

曇り空が予報され、連日の暑さから少しは開放されると期待していた。しかし予想に反し日差しが強く炎天下の作業となる。規定のオリエンテーション「作業内容説明、注意事項(こまめの水分補給)、体操等」を終え、参加者は5班に分かれ必要な諸道具(ヘルメット・鋸・ロープ等)を身に付け活動エリアへ移動する。各班は4~5人を1グループとし3~4グループを編成、各インストラクターの指導のもと作業が開始された。活動エリアは40~50年生のヒノキ林の間伐、細い木が選木されているものの20センチ前後と比較的太い、手ノコで切るにはかなりきつい作業である。また上部の枝は大きく張り出し隣りの木と絡み、かかり木処理に苦戦が予想された。しかし実作業では、ロープをフルに使い各グループ間で力を合わせて、かかり木処理作業行なった。

(記 6期 大道 辰夫)

◆ 三菱重工 技能系新入社員研修 間伐

日 9月14日(金)10時~13時、晴れ

場 やどりき水源林

参 24名(新入社員17名、指導員4名、引率者3名)

県 自環保・水源の森林推進課 内田様

イ L坂齋⑦、山崎⑦

参加者は

新入社員:17名、指導員:4名、引率者:3名

以上を2班(A,B)に分け実施

- 1 「やどりき水源林」の概要紹介 ……自環保 内田様
- 2 「間伐作業に関する説明」……森林インストラクター 安全チェックシートの内容に沿って間伐時の注意点、間伐の方法は用意した図で説明、以上の説明後、作業地に移動し間伐作業。作業地は予め指定された場所(三菱重工 パートナー林 ではない)

A,B 班共に胸高直径10cm 程度のヒノキ伐採。

指導員・引率者ともに新入社員に対し面倒見がよく、スムーズに作業が進んだ。

新入社員にとっては充実した作業であり、十分満足したと思われる。

(記 7期 坂齋 明)

◆ 座間市 芹沢公園 (下刈り)

日 9月14日(金)8時30分～12時40分、晴れ

場 座間市 芹沢公園

参 17名 (座間市民(公募))

スタッフ 座間市役所公園緑政課 4名

イ L小野⑦、高橋③

自然保護思想啓発活動(森づくりボランティア)として、市民の自然保護・緑化推進意識の向上を目的に座間市立芹沢公園内の下刈りを実施した。現地は一部カナムグラの繁茂が激しく鎌を使わず蔓(ツル)を引っぱっての退治を指導し効率的に除去。道路が市民のウォーキング・散歩コースの為利用者にはかなりスッキリと感じられる環境には近づけたと思う。

作業後は途中樹木の話など織り交ぜながら集合場所に戻り鎌研ぎ後昼食。

午後は小野から直近の新聞記事の引用とグラフ(大卒初任給と国産材価の過去50年の推移)により国産材価の低迷が山林の手入れ不足の大きな要因と説明。高橋さんよりホトギスの仲間の生態についての講話、参加者の耳目を集めたのは托卵は勿論、日本への渡来順序が決っており決して前後する事がない為農作業の目安になっている事であった(ツツドリ→ジュウイチ→カッコウ→ホトギス)講話後質問も交え乍ら和やかなひとときを過ごし定刻少し前に解散した。

(記 7期 小野 幸広)

◆ 県民参加の森林づくり体験講座 (間伐)

日 9月22日(土)8時30分～13時30分、曇り

場 小田原市久野(狼沢)

参 一般応募者49名

財 豊丸様、永島様 看 青木様

イ L山崎⑦、戸谷⑥、横田⑨、武者⑦、小笠原⑩、鈴木⑦、小沢⑨、高橋⑨、徳岡⑪、柴⑪、真貝⑪

現地は平坦地で間伐木が15年未満の比較的細いヒノキ林。施業し易く危険性も少ないので、一人2～3本

程度の間伐が体験できた。体験講座として最良の場所だった。参加者の最年少は小学校2年生の女の子で、班によっては半数が未経験の参加者という事もあり、お楽しみとして間伐材によるコースター作りも実施した。また、13期のメンバーも多く参加されたこともあり、熱心にインストラクターの説明を聴いてくれた。

中には物足りなく感じた人もいただろうが、チームで作業することを経験してもらったので、一般の森林づくり講座でもチーム活動が活かされるものと思う。

ミニ講座では、山崎リーダーから神奈川県小田原近辺の川とダム、発電所に関して合流の状態やダム発電所の個数や使われ方などについて詳細な講座説明があった。

最後の反省会では、今回はトイレの準備がされていなかったが「トイレに関する説明が最初からされていると良かった。今回女性の参加者が多かったが、女性に対する配慮が必要ではないか。」との意見が出ていた。今回の体験講座でのケガ・事故・ヒヤリハットは無かった。

(11期 真貝 勝)

◆ 横浜市立大正小学校

(登山をしながらの自然観察は雨のため内容変更)

日 9月23日(日) 9時40分～14時半、雨

場 午前:レインボープラザ、午後:愛川ふれあいの村

参 横浜市立大正小学校4～5年生 160名

教師 大江先生他6名

スタッフ レインボープラザ 4名

イ L村井⑨、小林⑨、小林⑩、上宮田⑪、一重⑪、赤崎⑫、西出⑫、

楽しみにしていた5年生80名参加の高取、仏果山登山でしたが、大雨注意報発令の悪天候で室内での活動に切り替わり、午前は愛川レインボープラザに直行して私たちは4～5年生160名のお手伝いに変更。それでも前日、担当の先生にインストラクターの出番を申し入れていたので、藍染め、紙漉き体験の隙間時間を12期赤崎さんのネイチャーゲームと11期一重さんの東北弁昔話を披露することができた。

午後は愛川ふれあいの村に移動。焼き板づくりの前に時間を頂き、私(村井)の里山をテーマにした紙芝居とヨーデルガラスの歌、赤崎さんのネイチャーゲーム

に、上宮田さん、赤崎さんの体操で締めくくり大正小学校の活動は終了した。

(記 9期 村井 正孝)

◆ 横浜市立平沼小学校 間伐体験

日 9月24日(月)10時30分～15時00分、晴れ

場 相模原市 長竹承継分収林

参 小学5年生95名、教師5名、カメラマン1名

財 古館様、初山様

イ L松山⑩、井出①、高橋③、阿部⑧、齋藤⑥、

渡部⑦、三浦⑧、内野⑨、松本⑪、永松⑫

快晴の朝。インストラクターは、9時40分から現場15年生の檜林の下見を行い、担当する班の区割りを確認。児童たちの到着を待つ間、本日の安全目標を『隣接する班の作業に注意』と定め、具体的には『互いに隣の班に気を配り、安全な距離を確認しながら作業を行う』とした。バスは、道中の交通渋滞で予定時刻より45分遅れて長竹着。

11時15分より始めの会。間伐体験学習は、班ごとに14時30分まで、昼食を挟んで約3時間。先ず、間伐の意義、鋸の持ち方など事前説明を行ってから、選木・伐木・枝払い・玉切りと進め、土産(コースターなど)づくりをして作業を終えた。

まとめに、伐木の年輪を数えて人工林の説明や、森林のはたらきなどを解説した。

集合場所に戻り、鋸の整備、終わりの会。全員で

『山の神さまありがとうございました』とお礼を言って無事終了。15時、児童たちはバスで愛川ふれあいの村に向かった。ヒヤリハットなし、ヤマビル被害なしでした。



(記 10期 松山 隆治)

◆ 日揮パートナー林活動

間伐体験、自然観察、クラフト

日 9月29日(土)8時30分～13時30分、晴れ

場 やどりき水源林

参 日揮株式会社従業員とその家族 57名

県 自環保・水源の森林推進課 内田様

イ L金森⑩、宮本④、齋藤⑥、伊藤⑦、山崎⑦、

黒沢⑧、野田⑧、飯澤⑨、杉崎⑩、安井⑫

気持ちのよい秋晴れ。当会1期で日揮の社員でもある佐藤さん司会によるアイスブレイキング、社長の挨拶、スタッフやインストラクターの紹介、ストレッチ、班分けの確認、記念撮影を行い、時間通り10時30分より各活動に入った。

間伐班:日揮の西山さんによるKY(危険予知)について資料と対話方式による講習があった。さすが、安全管理に重点を置いている企業だけあって意識が高いと感じた。後沢から10分ほど登ったヒノキ林にて4班に分かれて間伐を行った。作業の距離は互いが見えない程に十分にとり、時間をかけて安全にゆっくり楽しみながら各班太さ30センチのものを1本間伐した。ヒヤリハットはなかった。

散策班:日本語が通じない多国籍の方が13名いることが事前にわかっていたが、通訳もいるとのことで当日は普段通り行うことにした。フィリピンから来た方は山を見るのが初めてでそれだけで良かったようだ。担当された、伊藤、野田、飯澤、杉崎さんの感想は結果として良かった、楽しかった。

クラフト班:齋藤、安井さんの入念な準備のおかげ参加者はミニ下駄、竹笛、木枝のストラップなどを各自3個以上作成することができ満足であった。12:45に集合棟前に再集合してまとめを行い、主催者一行はアサヒビール工場に向かってやどりき水源林を後にした。

(記 10期 金森 巖)

略語の説明

日 :日付、 場 :場所、 参 :参加者、
 県 : (自然環境保全センター) 自環保・水源の森林推進課
 財 : (公財)かながわトラスみどり財団
 スタッフ 例 小田原市森林組合・佐藤様
 例 川崎市公園緑地協会・野牛様
 看 :看護師、 イ :インストラクター(○数字:期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」
 ホームページは下記URLで見ることができます。
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.htm>



やどりき水源林
ミニガイド

10月のトピックス

広場近くの林道崖側で見つけた
“ホトギス



(写真撮影 10.11.)

● 11月の水源林

秋のまっただ中、美しい紅葉を求めに水源林を訪れてください。森の案内人がご案内します。ご家族連れ、お友達を誘ってどうぞ。清流にチョット手を入れて冷たさも感じてください。

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(公財) かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255
携帯：090-8580-5348
fax:045-412-2300
- ホームページ：http://www.ktm.or.jp
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

第2回神奈川チェーンソーアート競技大会



■日時：11月11日(日)9:30～16:00
■会場：丹沢湖ダム広場公園(山北町)お問合せ：ASHIGARAアートプロジェクト推進室
〒231-0023 横浜市中区山下町1シルクセンター402
TEL:045-664-3731(平日10:00-17:00)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail:s.akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax:045-301-9401

電話連絡先:090-7962-3168

Mail:matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mail:minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

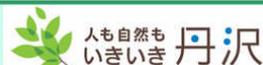
〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:l2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。



丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページは下記URLでごらんください。

http://www.tanzawasaisei.jp/

編集後記

★長年の夢であった鬼怒沼へ。宿泊は日光澤温泉にて…栃木の水源林はただただ美しかった。(赤崎)

★長年の指の酷使がたたって右手の指がバネ指になり、指の付け根に痛い注射を打ってきました。腱鞘炎だそうですね。(村井)

★朝晩の寒暖差が非常に大きくなり、体調の維持に苦勞してきましたが、ついに風邪をひきました。気の緩みを立て直します。(小沢)

★10月に入ると周辺農家では一斉に夏野菜栽培の後かたづけに入る。私も知人の百姓のトマト栽培のかたづけを手伝いました。夏前の準備と違って何か寂しさを感じました。(徳岡)

★木は山のIPS細胞だと思います。山中教授のこれからの決意に感動しました。(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価200円送料共)

編集人：小沢 章男

事務局：竹島 明

広報部：水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

松田きらきらフェスタ 11月下旬～12月下旬

11月下旬、松田山がLEDのイルミネーションに彩られると、恒例の松田きらきらフェスタがいよいよスタートします。



11/3、11/10の成長の森見学会のお帰りにぜひお越しください。

小田急 新松田駅
踏み切り際

山麓のオアシス ⑭

～お食事処～

美酒もお待ちしています

こまち

緑の募金箱協力店